

英語の授業におけるポートフォリオ活用に向けて

吉重美紀*

An Approach to Using Portfolios in the English Class

Miki YOSHISHIGE *

Abstract

The purpose of this paper is to report an approach to using paper-based portfolios in an English class at a university in Japan. In my English I (basic) class for freshmen, all twenty-four students made portfolios with three items: their aims for the class, what they have understood, and their comments or questions. The results of using these portfolios, from two perspectives, the teacher's and the students', were based on a questionnaire given at the end of the course. Eighteen (75 %) of the students valued making portfolios, while six (25%) did not.

From the perspective of the teacher, portfolios were found to have three main advantages: the teacher can grasp a student's real progress/process in their learning, have opportunities to communicate with students outside the classroom, and reconsider their way of teaching to improve it. The students also seemed to find some advantages of utilizing portfolios. One is that they can improve their autonomy in the class by setting up goals for themselves. Furthermore, it was found that they can follow their own progress and communicate better with their teacher by making portfolios.

Keywords: ELP (European Language Portfolio), portfolios, language biography, assessment, autonomy

要約 (和訳)

本稿は、日本の大学の英語の授業にポートフォリオ（紙ベース）を導入した効果についての事例報告である。筆者の担当する1年次対象英語I（基礎）クラスでは、学生24名が3つの項目（今日の目標、わかったこと／理解できたこと、感想／質問等）でポートフォリオを作成した。ポートフォリオ作成の効果について、学期末アンケートの結果をもとに教師および学生の2つの視点から検討した。アンケートは24名が回答し、ポートフォリオ作成に好意的なものが18名（75%）、非好意的が6名（25%）であった。

ポートフォリオは教師側から見ると、①学習状況および実態の把握、②教師と学生とのコミュニケーション、③授業の振り返りと改善、と大きく3つの効果をもたらすと考えられる。学生は、①授業前の目標設定による自律的学習の促進、②自身の学習状況や学習過程の把握と振り返り、③教員とのコミュニケーションといった効果があると考えているようだ。

Keywords: 欧州言語ポートフォリオ、ポートフォリオ、言語学習記録、評価、自律性

* 鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系

はじめに

外国語教育における「ポートフォリオ」という言葉を初めて耳にしたのは、20年近く前米国コロンビア大学大学院の社会言語学のクラスであった。カリフォルニア大学バークレー校から来た担当教員が、最終課題をポートフォリオとして提出するよう求めたのである。その言葉も忘れかけていた平成26年3月東京外国語大学で開催された国際シンポジウムの講演で、再びこの言葉を耳にすることとなった。今度は、国内の大学の授業（外国語以外）でポートフォリオを導入し教育効果を上げていると言う。その講師の話された要点のみ覚えて帰り、平成26年4月から「英語Ⅰ」の授業にポートフォリオを導入することとした。また今年平成27年11月7日北海道大学で大学の日本語・外国語教員を対象に開催されるワークショップは、そのタイトルが「学習を促進する評価のデザイン：パフォーマンス評価とポートフォリオ評価を中心に」で、案内文には「学習の過程を評価する形成的評価が重要と考えられるようになり、学習過程を評価するポートフォリオ評価の使用が増えた。」とある。講師は、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校の言語学の教授で、やはり米国は日本よりポートフォリオ活用が進んでいるようだ。

本稿は、英語の授業に簡易ポートフォリオを導入した事例報告である。ここで簡易ポートフォリオ（以下、ポートフォリオ）と呼ぶのは、ポートフォリオの一部である言語学習記録（Language Biography）を、筆者が担当する英語の授業用に簡易化し使用したからで、本稿のポートフォリオは、「学習者が学習目標を設定し、学習過程を振り返りながら言語学習について授業中に記録する英語学習記録」と定義したい。またポートフォリオ評価の捉え方については、次の2つを考えたい。1つは、学生がポートフォリオを用いて自らの学習状況を振り返る自己評価であり、もう1つは教師（筆者）が学生のポートフォリオを読んで学習状況を見取る他者評価である。本稿で

は、ポートフォリオの教師および学習者からみた利点と学習者のポートフォリオに対する反応について、学期末アンケートの結果をもとに検討したい。

1. 外国語教育におけるポートフォリオ

従来、ポートフォリオは主に米国で標準テストに代わる「評価」の手段として導入され、その後併用されている。峯石（2010）によると、ポートフォリオには主に3つのタイプがある。作業ポートフォリオ（working portfolio）、展示ポートフォリオ（display, showcase, or best works portfolio）、評価ポートフォリオ（assessment portfolio）の3つである。作業ポートフォリオの主な目的は、学習資料の保管で、特定のトピックに関連した学習資料を、学習者自身が保管するために使用する。展示ポートフォリオは、成果ポートフォリオ（product portfolio）とも呼ばれ、各学習者の自己最高傑作を取めたポートフォリオである。評価ポートフォリオの主な目的は、そのカリキュラムにおいて「学習者が何を学んだか」を記録することである。上述した米国の社会言語学の課題で筆者が求められたのは、作業ポートフォリオと成果（展示）ポートフォリオの組み合わせであったと思われる。

上記3つの「評価」の手段の他に、ポートフォリオは「教授学習」の手段としても使用され、学習者にとっては自律的な学習能力を伸ばす指針となり、教師には適切な教授・指導の枠組みをもたらす有効な手段として注目されてきた。特に、第二言語習得研究でポートフォリオが教授学習手段として注目されるようになったのは、欧州評議会で「Council of Europe, Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠, CEFR, 2001）」の枠組みと同時に「The European Language Portfolio（欧州言語ポートフォリオ, 以下 ELP）」が提案されてからで、ELPによる学習者の自律育成プログラムの成功がその背景にあった。投野（2013）によると、ELP

の目的は、「欧州市民の相互理解を深め、多種多様な文化を重んじ、生涯複言語主義を実践し、自律学習能力を高め、言語学習プログラムに透明性と一貫性を持たせ、欧州圏内の移動の容易さを求めて言語能力と資格を明確に記述するなど」である。また ELP は 3 つの柱、つまり言語パスポート (Language Passport)、言語学習記録 (Language Biography)、資料集 (Dossier) から成っている。投野はまた、ELP について「学習者の自律と生涯教育、異文化コミュニケーションの促進を目的とした、いわば学習者の学習記録ノート (ポートフォリオ) であり、学習者が到達目標を決め、授業活動、授業外活動等によって自己の外国語学習を内省的に省察、評価しながら外国語学習が続けられるよう意図されたものだ」と述べている。

2. ポートフォリオ導入クラスの実態

本学では、平成26年4月新カリキュラムがスタートし、英語関連科目は1学年を5レベル6クラスに分け、習熟度別クラスで指導することとなった。

下記が、平成26年度1年生を対象に4月実施した英語プレースメントテスト (1000点満点) の結果である。

表1：平成26年度英語プレースメントテスト (4月) 結果

課程	最高点	最低点	平均点
全体	660	50	375
S 課程	660	50	389
M 課程	575	66	344
下位49名	272	50	193
導入クラス(基礎①)	266	66	194

1 学年全体の平均は375点であるのに対し、下位49名 (「英語 I 基礎①②」クラス) の平均は満点の2割に満たないうえ、100点未満の学生が3名いた。この下位49名が「英語 I (基礎)」を2クラス①②に分かれ履修したため、表の一番下に筆者が担当したクラス (基礎①) の結果を入れる。今回は、実験的に下位群の授業にポートフォリオを導入し検証することとした。

3. 先行研究

峯石 (2002) は、ポートフォリオ作成を組み込んだ英語リーディング・プログラムおよび英語リーディング・ライティング統合プログラムによる大学生の学習の質的变化と英語リーディング・ライティング能力の向上を2年間調査し報告している。1年目は、ポートフォリオ作成によって学習者の英語能力向上を促すことができるか、ポートフォリオ作成への学習者の反応が好意的か非好意的かを調査した。調査の結果、統制群と実験群で統計的な有意差は認められなかったもののポートフォリオによる動機づけ効果が認められた。また、多くの学習者がポートフォリオ作成に関して英語学習に積極的な効果を及ぼすものと捉えていることが認められた。2年目は、統合プログラムにおける学習者の反応、学習者の考えるポートフォリオの適切な作成・提出回数、熟達した学習者とそうでない学習者におけるポートフォリオ作成プロセスや学習方法、自律性などの差異等について調査した。その結果、ポートフォリオは大学生の英語リーディング・ライティング能力育成に質的向上をもたらすと考えられること、ポートフォリオは学習者にとって好意的に受け入れられ、成功率も高いと予想されること等が明らかとなった。峯石は、ポートフォリオの実現化に向け、導入や実施方法に留意しさえすればプログラムとしての成功が期待できることを挙げ、電子化したポートフォリオ (eポートフォリオ) の作成も提案する。ほかには日本の英語の授業にポートフォリオを導入した事例報告はまだ少ないようである。

4. ポートフォリオ導入の実際とその利点

筆者はポートフォリオを「教授学習」の手段として、また学生による自己評価、教師による他者評価の手段と考え、以下のように実施した。学生に毎時間授業始めにその時間の目標 (今日の目標) を書かせ、終了時にその目標の達成や理解した事 (わかったこと、出来たこと)、よく理解できなかった点や質問 (感想、質問) 等、3つの空

欄に自由に書かせた。筆者は学生が目標を設定しやすいよう、授業開始前にその日のおおまかな授業内容と主な文法項目等を板書しておいた。前期15週毎時間学生にポートフォリオを作成／提出させ、筆者が読んでコメント等を書いて次の授業始めに学生に返却した。ポートフォリオの書式は、コース前半と後半2枚に分け、コース半ばに中間試験を16回目に学期末試験を実施した。また学生には毎時間テキストから課題を出したが、授業始めに個別に課題ノートをチェックし、スタンプを押していくようにした。学生が書くポートフォリオと、課題ノートの点検で、各学生の学習状況を把握するよう努めた。

4.1. 教師側からみたポートフォリオの利点

ポートフォリオの教師側からみた利点について、筆者の意見を述べたい。第一に、学生の学習状況および実態の把握である。学生は、授業中理解できなかった点や疑問点をポートフォリオに記入するため、次回の授業で説明を加えることが出来た。また、学生が毎時間設定する目標は、たとえテキストの同じ課を学習するにしても、リスニングに重きを置く者、発音を上達させたい者、語彙を増やしたい者など、それぞれに異なることもわかった。

次に、ポートフォリオを通じた教師と学生の授業外でのコミュニケーションを挙げたい。学生は毎時間ポートフォリオを作成し、教師が授業終了後それを読みコメントや説明等を添えることで、授業以外でのコミュニケーションの場となった。今回ポートフォリオを導入したのは下位群クラスで、授業中集中力に欠ける学生もいたが、当該学生に対しポートフォリオに注意や励ましの言葉を添えることで、受講態度の改善につながったと思われる。

三番目に、ポートフォリオで自身の授業を振り返り指導の改善すべき点や学生が理解できた点等、指導・教授に関する情報を得られ、授業の改善につながったことである。学生のコメントを

見ると、「前回より不定詞、動名詞がわかった。」や「前回より疑問文を理解した。」など、授業当日だけでなく、それまでの学習を振り返ったコメントが寄せられた。また中には、授業中筆者が発する英語によく耳を傾ける学生もいて、「先生が、Why don't you ? と使っていますが、どんな意味ですか。」等知らない英語表現を尋ねることもあった。

このようにポートフォリオは教師側から見ると、①学習状況および実態の把握、②教師と学生とのコミュニケーション、③授業の振り返りと改善、と大きく3つの利点があると考えられる。

4.2. 学生のポートフォリオに対する反応

学生のポートフォリオ作成に対する反応については、学期末に実施したアンケート調査から見てみたい。アンケート調査は、学期末アンケートの一項目でポートフォリオに関し尋ねた。内容は、「毎回授業の前後に書いてもらったポートフォリオは、どうでしたか。役に立ったと思いますか。」というものであった。

学生のポートフォリオの反応を下記にまとめる。平成26年度学期末アンケートは受講生24名が回答したが、その内訳は好意的と解釈できる記述が75% (18名)、非好意的と解釈できる記述が25% (6名)であった。まず好意的な意見を見てみよう。学生のコメントが多く寄せられたのは、目標設定に関する以下であった。

- ・ 目標を明確にして取り組めた。
- ・ 授業前に目標をたてることで、授業のどこに重点を置いてやるか明確になり助かった。
- ・ 目標を意識してできたので役に立った。苦手だった英語が得意になった。
- ・ 授業の前に目標を決めることで、目的を持ちながら授業に取り組むことができました。
- ・ 授業前に目標をたててやれたので、授業にしっかり取り組んでいたと思う。
- ・ その日の目標をたてることで、1日の授業の

内容がすごく濃いものになりました。

- ・ その目標通りにしようと思えた。

これらの好意的な回答傾向から、到達度テストのみの評価とせず、ポートフォリオを活用した授業を提供することで、学生の目標設定に対する意識を高めることができる可能性が考えられる。

次に学生から多く挙げられたのは、その日の授業の振り返りや過去の学習状況の把握など学習過程に関するコメントであった。

- ・ 感想を書くことで、その授業の振り返りができて、とてもよかったです。
- ・ 前回の授業の目標などを見ることが出来るのでよかった。
- ・ その日の自分の出来た事などがわかってよかったと思いました。
- ・ 自分が今どのくらい理解できているかを知ることができるので、よかった。

筆者が数年前、英語特区であった鹿屋市で小学校英語に関する調査を実施し授業参観した折、小学校の外国語（英語）の授業では終盤生徒に授業の振り返りをさせていたが、ポートフォリオは、一部の学習者には一種の「振り返り」の役割を果たしたようだ。

その他には、以下のように教員とのコミュニケーションを挙げた者やモチベーション等に触れた学生もいた。

- ・ 先生に伝えられるので良いと思う。
- ・ 先生とのコミュニケーションがとれたからよかった。
- ・モチベーションの維持にはよかった。
- ・ 集中して授業を受けられたと思う。

非好意的な意見（25%）としては、以下が挙げられた。

- ・ 授業の内容がわからない時、書く事がないです。
- ・ あまり活用できなかった。／あまり役に立っ

ていない。

このように学生はポートフォリオに、①授業前の目標設定による自律的学習の促進、②自身の学習状況や学習過程の把握と振り返り、③教員とのコミュニケーションといった利点があると考えている記載が見られた事から、峯石（2002）の言う効果を検証することの意義が認められた。しかしながら、「あまり役に立っていない」と考える学生もいるので、今後学生への導入や実施方法等にさらなる改善が必要だと思われる。

おわりに

ポートフォリオ作成への学習者の反応を調査した峯石（2002）では、ポートフォリオによる動機づけ効果が認められ、また多くの学習者がポートフォリオ作成に関して英語学習に積極的な効果を及ぼすものと捉えていることが認められた。またポートフォリオが大学生の英語リーディング・ライティング能力育成に質的向上をもたらすと考えられること、ポートフォリオが学習者にとって好意的に受け入れられ、成功率も高いと予想されること等が明らかとなった。

本稿は、英語の授業にポートフォリオを導入した事例報告であるが、峯石の調査結果と同様、学生の多くがポートフォリオ作成に好意的に反応した。特に自ら目標を設定し、授業でその目標達成をめざし取り組む自律的学習への動機づけ効果の可能性は高いと考えられる。また今回導入したクラスは、文法項目主体に作成されたテキストを使用し、リスニング、会話、文法、応用会話といった内容であったが、4技能のうちどの能力育成にポートフォリオが効果的なのかは調査していない。峯石が英語のリーディング・ライティング能力育成にポートフォリオを利用したように、ポートフォリオ利用に適したクラス、適さないクラスが存在する可能性もあるので、今後の検討課題としたい。

またポートフォリオを導入した当初、調査・研究は計画していなかったため、アンケート調査は

ポートフォリオに関しては一項目という不十分なものであった。峯石（2002）のように、今後ポートフォリオ作成に関する質問項目を増やし、より詳細な調査を行う必要がある。またポートフォリオを導入したクラスとしないクラスの事前事後テスト結果等の比較や、1クラスの中でも上位レベルと下位レベルの学生のポートフォリオ作成プロセスや学習方法、自律性等の差異についても調査する必要がある。

英語の授業で学生がポートフォリオを作成することで、今後さらに学生の自律的学習能力を向上させ学習効果を高めていくこと、学生が自分の意思で英語の学習を始め、学習の管理ができる自律的学習者を育成するための取り組みを深めていく必要がある。今後もELPなど外国語のポートフォリオはもちろん、大学レベルの他教科のポートフォリオ活用についても研究を継続していきたい。

参考文献

- 1) Council of Europe. (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 2) JACET 教育問題研究会（編）（2014）. 成長のための省察ツール 言語教師のポートフォリオ【英語教師教育全編】. JACET 教育問題研究会
- 3) 峯石緑（2002）大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究. 溪水社：広島
- 4) 峯石緑（2010）学習者の自己省察・自律を促すポートフォリオ 小嶋英夫, 尾関直子, 廣森友人（編）英語教育学大系第6巻 成長する英語学習者—学習者要因と自律学習. 大修館書店：東京, pp.162-192.
- 5) 投野由起夫（2013）CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック. 大修館書店：東京

資料 1：H. 26. 「英語 I 基礎」の課題について

この科目用にノートを用意する。予習は、問題をノートに解いてくるノート学習とする。出席の代わりに毎時間ノートを点検し、完成していればスタンプがもらえる。スタンプの数で得点していき、それを評価の一部とする。

1) 当該授業で扱う各ユニットの Check Points と Grammar Points をよく読んだ後、シラバスにある課題（テキストの Grammar Check, Express Yourself + ワークブック）をノートに行ってくる。

* ノートには答だけでなく問題文も書くこと！例えば、問題は（ ）埋めであっても、全文をノートに書くこと（できれば和訳も）。

2) Check Link を活用し、Listening Warm Up と Conversation を聞いて、リスニングと発音の練習をする。準備したノートの表紙裏に、以下のスタンプカードを貼っておくこと。

（ ） 課程		学籍番号	名前			
1	2	3	4	5	6	7
/	/	/	/	/	/	/
8	9	10	11	12	13	14
/	/	/	/	/	/	/

* ノート課題は必ず自分の力で取り組むこと！ 質問は点検時に。

資料 2 : 英語 I 基礎①ポートフォリオ 様式

氏名

第 1 回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	

第 2 回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	

第 3 回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	

第 4 回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	

第5回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	

第6回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	

第7回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	

第8回 / 日

今日の目標	
わかったこと 出来たこと	
感想, 質問	
コース後半の 目標	

* 第8回目に、中間試験の予定。